

本学における継続的英語学習支援の活動報告

吉川りさ・横越梓・石川有香

1. はじめに

本学の研究インターンシップ派遣を希望する創造工学教育課程（以下、「創造」）の学生に対し、コロナ禍においても継続的な英語学習支援を提供することを目的に、英語科目集団が中心となり、2021年度に、（１）定期的な TOEIC IP テスト受験機会の提供と、（２）希望者に対してオンライン教材「ぎゅっと e」の無料配布・運営管理を行った。本活動に先立ち、2020年度では主に創造の学生を対象とした小規模な支援活動をおこなった。この経験を活かし、今年度は全学生（院生・学部生）に対象を広げ、活動名称を「名工大英語鍛錬道場」（2021年5月～9月実施分）、および「後期 名工大英語鍛錬道場」（2021年10月～12月実施分）として、活動した。本稿は、上記した「名工大英語鍛錬道場」と「後期 名工大英語鍛錬道場」の実施状況についての報告である。

2. TOEIC 実施について

コロナ禍により、TOEIC Listening & Reading IP テスト（マークシート方式）は2020年度および2021年度において学内開催が禁止となった。そこで、TOEIC Listening & Reading IP テスト（オンライン方式）の実施を計画し、2021年5月以降、計3回実施した⁽¹⁾。第1回は、4月19日（月）から5月7日（金）を申込期間、5月14日（金）から5月31日（月）を受験期間とした。第2回は、夏季休業期間が重なることを踏まえ、8月18日（水）から10月15日（金）を申込期間、8月18日（水）から10月16日（土）を受験期間とした。第3回は、冬季休業期間および期末試験期間と重なることを踏まえ、2021年12月13日（月）から2022年2月10日（木）を申込・受験期間とした。受験案内は、学生掲示および英語授業内でのチラシ配布のほか、大学構内でのポスター掲示を通して行った。受験料は各学生が負担した（名古屋工業大学後援会加入の場合は、金額補助があった）。各回の受験者内訳と記述統計は表1に示す。

年度始めの第1回実施分の受験参加者が最も多かったが、全回においてほぼ全ての学年から受験者がいたことから、定期的な受験機会を設けたことには意義があったと考えられる。

3. 「ぎゅっと e」の教材と学習開始までの準備

「ぎゅっと e」（北辰映電株式会社；以下、「北辰映電」とする）とは、広島市立大学で開発された e ラーニング教材である。膨大な問題数に集中的に取り組むドリル式の教材であり、「リーディング」、「リスニング」、「文法問題」、「スピーキング」、「ライティング」など技能別の教材選択が可能となっている。とりわけ「リスニング」や「文法問題」においては全ての項目が TOEIC の出題形式に即している。本活動では、この「ぎゅっと e」を使用した。

教材選択に際し、本活動の目的の一つに、研究インターンシップでの派遣を希望する創造の学生が、派遣希望申請の際に、英語外部試験の結果を派遣希望先に提出することが求められる場合があるため、その対策が必要であった点と、TOEIC は学生にとっても馴染みがある上に就職活動の際にも有利な資格の一つとして広く認知されているという点を考慮し、TOEIC の出題形式に即している「リスニング」と「文法問題」を本活動で使用する教材とした。「リスニング」については、初級・中級・上級の三つのレベルが設けられているため、各学生を実力に即したコースに振り分けることとした（振り分け手順は 3.2 節にて後述）。

表1. TOEIC IPテスト受験者内訳と記述統計

学年・所属	第1回実施分			第2回実施分			第3回実施分		
	<i>n</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>n</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>n</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>
B1	78	559.87	106.12	17	598.82	131.66	7	595.00	66.49
B2	46	565.43	109.11	17	591.47	115.17	10	590.50	142.89
B3	29	574.48	116.68	8	551.88	133.31	7	632.14	120.97
B4	20	537.50	112.5	10	650.00	148.44	9	640.00	104.67
博士前期課程	33	583.33	110.88	9	592.22	181.01	5	568.00	63.21
博士後期課程	3	551.67	207.38	1	755.00	-	-	-	-
職員	2	832.50	60.10	-	-	-	-	-	-
総受験者数	211	567.11	112.99	62	600.56	136.93	38	607.76	112.59

3.1 アカウント付与の手順

2021 年 5 月～9 月実施分の「名工大英語鍛錬道場」（以下、「前期道場」）で使用了「ぎゅっと e」のアカウントについては、英語科目集団が保有してい

るアカウントを使用し、学生が金銭的な負担をすることなく学習に取り組める環境を提供することとした。しかし、アカウント数の上限により、参加者数の制限を行う必要があった（教材 1 つにつきアカウント 1 つであり、学生 1 名が「リスニング」と「文法問題」の 2 つの教材を利用する場合は、2 つのアカウントを使用することとなる）。

2021 年 10 月～12 月実施分の「後期 名工大英語鍛錬道場」（以下、「後期道場」）では、希望する学生全員に学習の機会を提供することと、同じく学生に金銭的な負担をかけさせないことを前提とした。これらの点を満たすために、学長裁量経費を申請したところ、経費の使用が認められ、継続的に英語学習を希望する学生に無料で学習支援を行うことが可能となった。

両道場への参加申込案内は、TOEIC IP 受験案内と同様に、学生掲示板および英語授業内でのポスター配布を通して行った。

まず前期道場においては、開講前には、参加希望者が Moodle の指定コースへ自己登録することにより参加登録完了と見なすこととしていたが、受け入れ可能人数を大幅に超える学生が Moodle コースへ自己登録したため、道場参加意思の確認と追加情報の収集のために、Moodle の「アンケート」機能を用いてアンケートを作成し、回答を求めた。その結果、本アンケート回答者 300 名および回答期限後の追加申込者 10 名を合わせた 310 名を本登録者とみなし、アカウントを付与することとした。アンケート未回答者については、募集ポスターなどに触れて、興味本位で自己登録したにすぎなかっただけなのか、参加意思はあったものの期限までにアンケート自体に気づかなかったのかを特定することはできなかった。

後期道場においてのアカウント付与に際して、想定し得る参加学生は、前期道場からの継続参加者と、新規参加者の 2 パターンであった。そこで、前期道場からの継続参加者においては、前期道場用の Moodle コース内で後期道場の参加募集案内を行い、Moodle の「アンケート」機能を用いて継続参加希望調査アンケートを行い、意向確認を行った。後期道場から新規参加を希望する者については、学内掲示板を通して行った参加募集案内を募集窓口とし、継続参加者とは異なる指定アンケート (Microsoft Forms を使用) への回答を求めた。また両アンケート内において、後期道場用の Moodle へ自己登録をするよう指示を行った。これらの手順を踏み、後期道場参加者となったのは、前期道場からの継続参加者 130 名（前期道場参加者の 42.26%）、新規参加者 222 名の計

352 名であった。各アンケートへは完了済みであったものの、後期道場用の Moodle への自己登録が完了していない者や、TOEIC スコアまたは自己申告の英語力が未報告の者に対しては、複数回にわたり連絡を試みたが、期限を超えても返信がなかったため、「ぎゅっと e」のアカウント付与は行わなかった。なお、後期道場参加募集に際して、継続参加者用と新規参加者用として募集窓口を二つにしたことで、想定以上に管理が煩雑であったため、今後は、窓口は一つに絞ることが適切だと感じた。

「ぎゅっと e」システム上の受講者登録は両道場ともに北辰映電に依頼した。期限を過ぎた参加申込が一定期間続いたこともあり、登録作業は複数回を要した。

3.2 前期道場参加学生の特徴と使用教材の割り当て手順

前節で説明した通り、前期道場の参加申込者数は、想定を大きく超える人数が指定 Moodle コースへ自己登録を行ったため、彼らに対して道場参加意思を確認するアンケートを実施した。ここでは、このアンケート結果を報告し、前期道場に参加した学生の情報をまとめる。

本アンケートでは、参加意思確認のほか、第 1 回 TOEIC IP 受験の有無（受験有の場合はスコア報告欄への記入を、未受験の場合は過去 2 年以内の TOEIC スコアと自己申告の英語力の報告欄への記入を求めた）や、前期道場参加理由（複数回答可）などを尋ねた。また、道場参加過程で蓄積されるデータは匿名管理の上、英語教育の改善に活用される旨を告知し、全員から同意回答を得た。前期道場参加理由をまとめた結果は図 1 に示す。

図 1 から、前期道場の参加学生の最も大きな特徴は、就職活動時や進学時といった将来を見据えた学生や、オンライン学習の利便性に着目した学生が多いことであると言えよう。また、英語という言葉に興味を持っていて、自分の視野を広げたいと考えている学生がいることが読み取れる。

次に、使用教材の割り当て手順について説明する。本章冒頭で述べたように、「ぎゅっと e」の「リスニング」教材には 3 つのレベル（初級・中級・上級）が設けられている。そこで第 1 回 TOEIC IP 受験をした者に対しては、そのス

コアに基づき、未受験者に対しては、過去 2 年以内の TOEIC スコアもしくは自己申告の英語力に基づき、振り分けを行った（表 2）。初級は TOEIC300 から 500 点程度、または英検 3 級・準 2 級程度を、中級は TOEIC400 から 650 点程度、または英検準 2 級・2 級程度を、上級は TOEIC600 から 800 点程度、または英検 2 級・準 1 級程度を目安として捉えた（この目安は北辰映電からの提供資料に基づいた）。

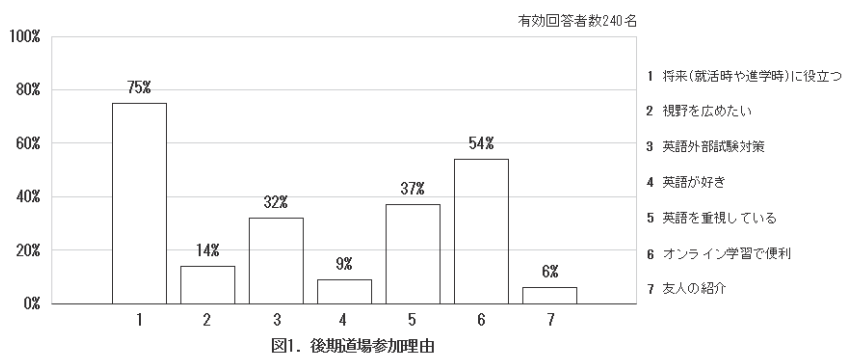


表2. 学年別教材レベル振り分け結果（前期道場）

教材レベル	学年						総数
	B1	B2	B3	B4	博士前期課程	博士後期課程	
初級	5	7	5	6	4	1	28
中級	44	42	37	21	24	2	170
上級	21	18	18	20	32	3	112
総数	70	67	60	47	60	6	310

3.3 後期道場参加学生の特徴と使用教材の割り当て手順

後期道場への参加申込の際にも、前期道場の参加申込時の方法に倣い、第 2 回 TOEIC IP 受験有無や、後期道場参加理由などを尋ねた。今回も道場参加過程で蓄積されるデータは匿名管理の上、英語教育の改善に活用される旨を告知し、全員の同意回答を得た。後期道場参加理由をまとめた結果は図 2 に示す。前期と同様、就職活動時や進学時といった将来を見据えた学生が多いことが分かった。なお、前期では選択肢になかった項目（図 2 内の 8～10 番）を加えたところ、半数以上の学生が、無料で英語教材にアクセスできると、英語力

がつくことを重視していることがわかった。授業外での英語学習環境の提供が本活動の主な目的であったため、本アンケート結果は本活動実施の目的にも合致しており、本活動は実施の意義があったといえよう。

使用教材レベルの割り当てについては、上記した前期道場で行った手順を踏襲し、振り分けを行ったところ、表3で示す通りの振り分け結果となった。

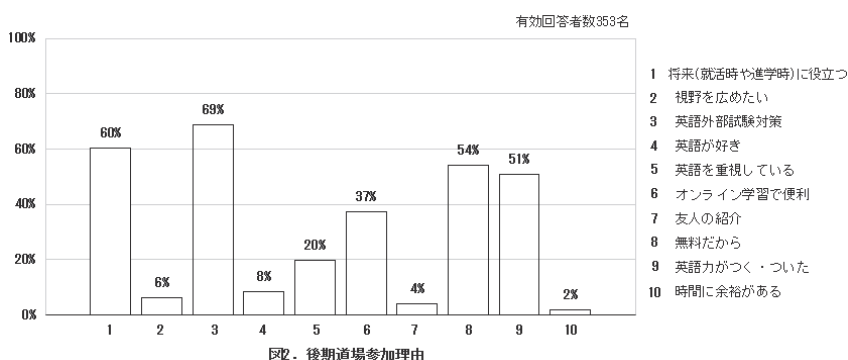


表3. 学年別教材レベル振り分け結果（後期道場）

教材レベル	学年						
	B1	B2	B3	B4	博士前期課程	博士後期課程	総数
初級	5	9	9	2	10	2	37
中級	42	47	60	14	29	1	193
上級	23	20	20	22	32	6	123
総数	70	76	89	38	71	9	353

3.4 Moodle の設定手順と学習支援

両道場ともに、鍛錬（「ぎゅっと e」学習）を開始する上での最終準備は、「ぎゅっと e」アカウント付与者を Moodle の「グループ」機能を用いて、3つの学習レベルクラスに割り当てることであった（便宜上、初級コースは A クラス、中級コースは B クラス、上級コースは C クラスとした）。Moodle 上に「A クラス」、「B クラス」、「C クラス」の3つのトピックを作成し、学習に必要な関連ファイルをアップロードした（学生画面からは、自身のクラス名が示されたトピックのみ表示されるよう設定した）。クラスごとに、「ぎゅっと e」のログインに必要な情報や手順、FAQ 集 (<https://gyuto-e.jp/document/faq/>)、北辰映電が公開している学習案内資料などを事前にアップロードし、学習開始前に参

加者自身で「ぎゅっと e」の学習内容とログイン方法などが確認できるようにし、予測される問い合わせを減らすよう準備した。

3.4.1 学習開始前の学習支援

上記した事前アップロードファイルには、クラスごとに週単位の学習目安範囲を示したファイルも含めた（前期道場分は図 3～図 5 に、後期道場分は図 6～図 8 にそれぞれ示す）。目安作成の際は、学生への授業履修による負担を考慮して、中間・期末試験にあたる期間は「遅れ解消期間」とし、その週までに未完了の課題への取り組みや復習に充てる期間とした。前期道場においては、夏季休業期間にあたる 9 月には、全課題を 3 週間で再度取り組む期間を設け、その後は各自で取り組める「総復習」期間を設けた。なお、本目安の提示に際し、各週の課題量が少なく感じた場合は自分のペースで先に進めること、そして継続した英語学習が続けられるよう計画的な学習計画を立てることを勧めた。後期道場においては、14 週の学習目安終了以降は自学習期間とした。

	期間	Listening	Grammar
1	5/11～5/16	001-060	001-053
2	5/17～5/23	061-120	054-106
3	5/24～5/30	121-180	107-159
4	5/31～6/6	181-240	160-212
5	6/7～6/13	241-300	213-265
6	6/14～6/20	遅れ解消期間	
7	6/21～6/27	301-360	266-318
8	6/28～7/4	361-420	319-371
9	7/5～7/11	421-480	372-424
10	7/12～7/18	481-540	425-477
11	7/19～7/25	541-600	478-530
12	7/26～8/1	遅れ解消期間	
13	8/2～8/8	601-660	531-583
14	8/9～8/15	661-720	584-636
15	8/16～8/22	721-760	637-689
16	8/23～8/29	761-800	690-740
17	8/30～9/5	遅れ解消期間	
18	9/6～9/12	001-267	001-247
19	9/13～9/19	268-534	248-494
20	9/20～9/26	535-800	495-740
21	9/27～9/30	総復習	

図3. Aクラス(初級)の学習範囲目安(前期)

	期間	Listening	Grammar
1	5/11～5/16	001-060	001-053
2	5/17～5/23	061-120	054-106
3	5/24～5/30	121-180	107-159
4	5/31～6/6	181-240	160-212
5	6/7～6/13	241-300	213-265
6	6/14～6/20	遅れ解消期間	
7	6/21～6/27	301-360	266-318
8	6/28～7/4	361-421	319-371
9	7/5～7/11	422-480	372-424
10	7/12～7/18	481-540	425-477
11	7/19～7/25	541-600	478-530
12	7/26～8/1	遅れ解消期間	
13	8/2～8/8	601-660	531-583
14	8/9～8/15	661-720	584-636
15	8/16～8/22	721-760	637-689
16	8/23～8/29	761-800	690-740
17	8/30～9/5	遅れ解消期間	
18	9/6～9/12	001-267	001-247
19	9/13～9/19	268-534	248-494
20	9/20～9/26	535-800	495-740
21	9/27～9/30	総復習	

図4. Bクラス(中級)の学習範囲目安(前期)

	期間	Listening	Grammar
1	5/11～5/16	001-054	001-054
2	5/17～5/23	055-108	055-108
3	5/24～5/30	109-162	109-162
4	5/31～6/6	163-216	163-216
5	6/7～6/13	217-270	217-270
6	6/14～6/20	遅れ解消期間	
7	6/21～6/27	271-324	266-318
8	6/28～7/4	325-378	319-371
9	7/5～7/11	379-432	372-424
10	7/12～7/18	433-486	425-477
11	7/19～7/25	487-540	478-530
12	7/26～8/1	遅れ解消期間	
13	8/2～8/8	541-594	531-583
14	8/9～8/15	595-648	584-636
15	8/16～8/22	649-684	637-689
16	8/23～8/29	685-720	690-740
17	8/30～9/5	遅れ解消期間	
18	9/6～9/12	001-240	001-247
19	9/13～9/19	241-480	248-494
20	9/20～9/26	481-720	495-740
21	9/27～9/30	総復習	

図5. Cクラス(上級)の学習範囲目安(前期)

	期間	Listening	Grammar
1	9/8～9/12	001-060	001-040
2	9/13～9/19	061-140	041-110
3	9/20～9/26	141-240	111-180
4	9/27～10/3	241-340	181-250
5	10/4～10/10	遅れ解消期間	
6	10/11～10/17	341-420	251-320
7	10/18～10/24	421-480	321-390
8	10/25～10/31	481-540	391-460
9	11/1～11/7	541-600	461-530
10	11/8～11/14	遅れ解消期間	
11	11/15～11/21	601-680	531-600
12	11/22～11/28	681-740	601-670
13	11/29～12/5	741-800	671-740
14	12/6～12/12	遅れ解消期間	

図6. Aクラス(初級)学習範囲目安(後期)

	期間	Listening	Grammar
1	9/8～9/12	001-060	001-040
2	9/13～9/19	061-140	041-110
3	9/20～9/26	141-240	111-180
4	9/27～10/3	241-340	181-250
5	10/4～10/10	遅れ解消期間	
6	10/11～10/17	341-420	251-320
7	10/18～10/24	421-480	321-390
8	10/25～10/31	481-540	391-460
9	11/1～11/7	541-600	461-530
10	11/8～11/14	遅れ解消期間	
11	11/15～11/21	601-680	531-600
12	11/22～11/28	681-740	601-670
13	11/29～12/5	741-800	671-740
14	12/6～12/12	遅れ解消期間	

図7. Bクラス(初級)学習範囲目安(後期)

	期間	Listening	Grammar
1	9/8～9/12	001-060	001-040
2	9/13～9/19	061-140	041-110
3	9/20～9/26	141-220	111-180
4	9/27～10/3	221-300	181-250
5	10/4～10/10	遅れ解消期間	
6	10/11～10/17	301-360	251-320
7	10/18～10/24	361-420	321-390
8	10/25～10/31	421-480	391-460
9	11/1～11/7	481-540	461-530
10	11/8～11/14	遅れ解消期間	
11	11/15～11/21	541-600	531-600
12	11/22～11/28	601-660	601-670
13	11/29～12/5	661-720	671-740
14	12/6～12/12	遅れ解消期間	

図8. Cクラス(初級)学習範囲目安(後期)

3.4.2 鍛錬学習期間中の学習支援

今回使用した教材はオンライン教材であるため、いつでもアクセスできるという利点はあるが、それゆえに継続的な学習を続けるための強い意志や英語学習に対する肯定的な動機づけが重要となる。学習開始前に提示した遅れ解消期を含めた週単位の学習目安(図3～図8)はその一助を担う目的もあった。学習目安の提示のほか、学習中には、以下に述べる3つの支援を行った。

まず、両道場学習期間中において、継続的な学習を促すべく、図3～図8で

示す各学習週の初日に、Moodle の「アナウンスメント」機能を用いて、参加者全員に対して声掛けを行った。「ぎゅっと e」ログイン後に表示される学習ページ（ホーム画面）にもメッセージを書き込める機能が設けられているため（図 9 の「お知らせ」部分に該当）、内容を毎週更新し、教員からのメッセージを表示した。さらにこの声掛けに加えて、Moodle 上に「学習完了報告」アンケートと「ぎゅっと e 進捗率」を設け、各参加者が他の参加者の各週の取り組み状況を把握でき、自身の立ち位置を客観的に評価できる環境を整えた。前者の「学習完了報告」アンケートは、各週の学習範囲までの取り組みが完了した場合に回答してもらい（図 10）、各週の投票結果は、学生の Moodle 画面でも確認ができるよう設定した。「ぎゅっと e 進捗率」は、各学習週の最終日に、リスニングおよび文法の学習履歴データを「ぎゅっと e」管理ページから収集し、各参加者の課題取り組み率を累積棒グラフで表したものであり（図 11）、参加者自身が配属クラス内での毎週の立ち位置を確認できるツールとした。



図9. ぎゅっとe学習ページのホーム画面（学生の画面では、図上部の「管理ツールへ」は表示されない）

3週目（5/11～5/16）の学習完了報告

○ 各の学習結果を表示する

学習範囲（3週目）までの振り返りが終わりました。ここで報告しましょう！

○ 全て完了 ○ Listening完了 ○ Grammar完了

私の結果を保存する

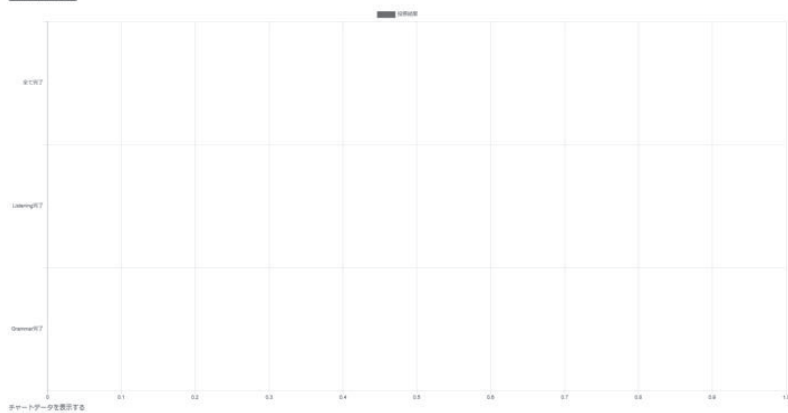


図10. 学習完了報告（見本）

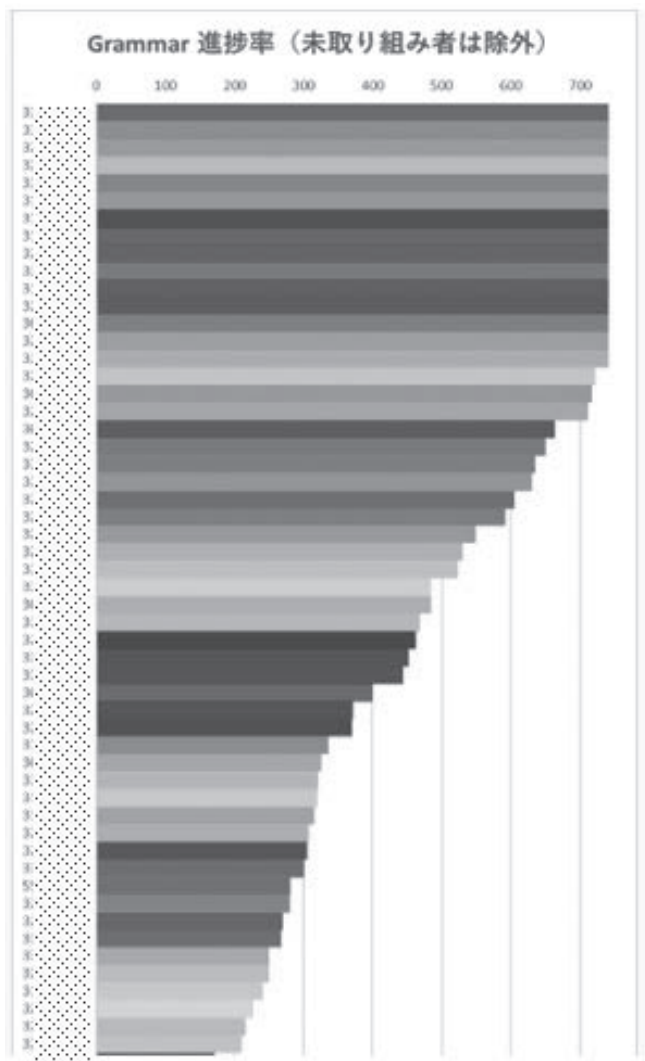


図11. ぎゅっとe進捗率
(eクラス第17週グラマーの進捗累積グラフの一部を加工)

4. 「ぎゅっと e」の取り組み状況

前章で述べたように、本活動では、学習開始前と学習中の両方で、学習支援を行った。その結果、参加者はどのようにオンライン英語学習に取り組んだのだろうか。また、どのような成果が見られるようになったのだろうか。本章では、学習履歴をもとに、前期道場・後期道場に分けて、道場参加者の英語学習への取り組み状況を分析し、次いで、TOEIC のスコアをもとに、道場の学習効果を検討する。

4.1 前期道場参加者の「ぎゅっと e」取り組み状況

まずは、週ごとのログイン回数の結果を示す。学習目安（図 3～図 5 参照）のうち第 17 週目までの取り組み期間で、参加者がログインした回数を 6 つのグループ（0 回、1～5 回、6～9 回、10～19 回、20～39 回以上、40 回以上）に分類し、各週でのログイン頻度を可視化した（図 12）。なお、図 12 は参加者内のログイン回数ではないため、第 1 週から第 17 週の参加者一人ひとりの推移を示したものではない点は留意されたい。本図から、学習序盤は、週に「40 回以上」ログインした学生は最も少なかったが、学習が進むにつれて、このグループに含まれる学生数は増えていき、最終週まで右肩上がりを維持した。一方、学習期間において終始ログインをしていない学生（「0 回」に含まれる学生）も一定数いたことがわかった。参加登録完了の時点で学習意欲がなくなってしまった、あるいは、いざ学習開始となると、意欲が低下してしまったのかもしれない。このような学生への学習指導の在り方については、今後の課題となる。

次に、週ごとに定めた学習目安到達状況に応じて、学習者を「未取り組み」、「目安以下」、「目安通り・目安以上」の 3 つのグループに分類し、これらの変動を「リスニング」と「文法問題」ごとにまとめた結果を図 13・図 14 にそれぞれ示す。2 つの図から共通して言えることは、相対的ではあるが、「目安通り・目安以上」で取り組んだ学生数が最も少なく、「目安以下」で取り組んだ学生数が最も多い点である。

また、興味深い点として挙げられるのは、計 3 回設けた遅れ解消期間（第 6 週・第 12 週・第 17 週）では、リスニングと文法の両教材ともに「目安通り・目安以上」で取り組んだ学生数が、前後の週に比べて相対的に多くなった一方、

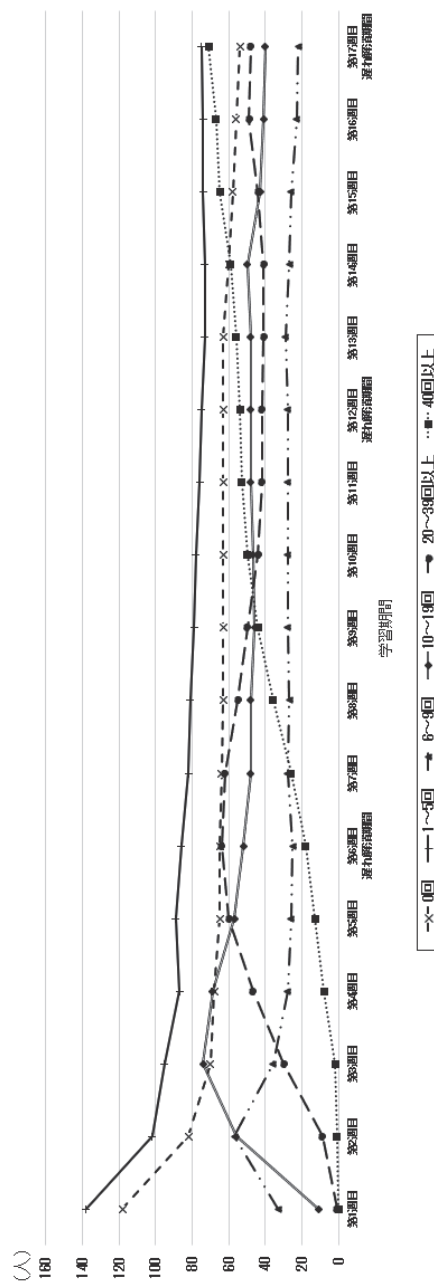


図12. 週ごとのログイン回数（前期訓練参加者間）

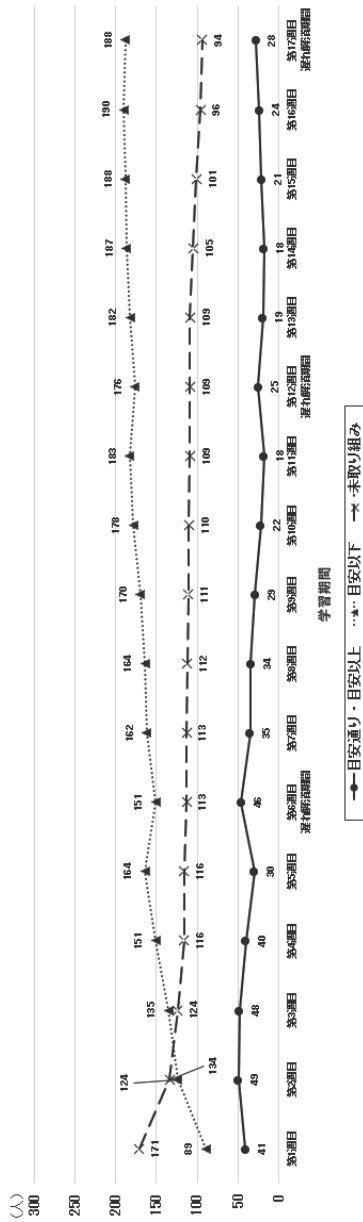


図13. 週ごとのリスニング教材の学習目安到達状況（前期録録参加者間）

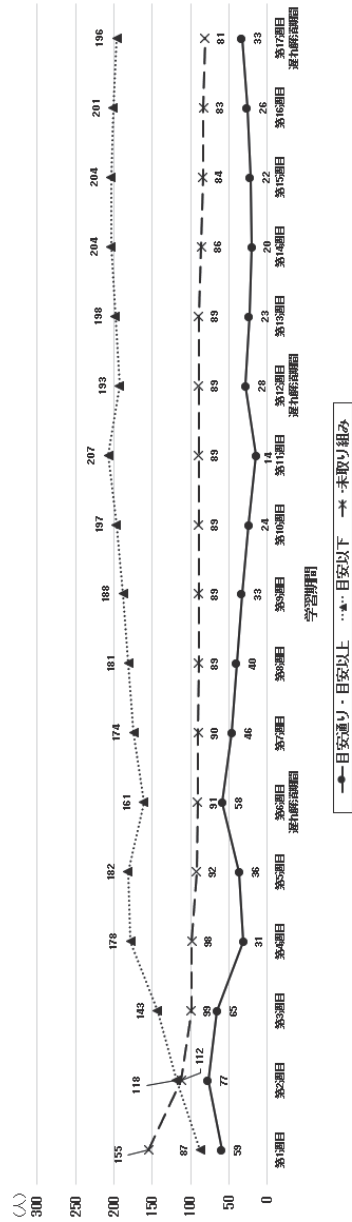


図14. 週ごとの文法教材の学習目安到達状況（前期録録参加者間）

「目安以下」で取り組んだ学生数が前後の週に比べて相対的に少なくなったことである。このような現象は、駆け込み学習が起きたことが起因すると考えられる。つまり、「次の週に（あるいは定期的に）遅れ解消期間があるから」というような余裕が生まれることで、通常の週における学習意欲が下がってしまった可能性がある一方、それでも遅れ解消期間では学習遅れを挽回しようとする学生が一定数いたということである。この駆け込み学習が起こった一つの理由に教員による声掛けが考えられる。声掛けが学生の取り組み状況に与えた影響の度合いは不明ではあるものの、遅れ解消期間の1週間前、声掛けメールと「ぎゅっと e」のホーム画面において、遅れ解消期間の予告をしていたため、この声掛けが、良い意味でも悪い意味でも、学生の駆け込み学習につながった可能性はある。とりわけ本道場のような授業外活動では、継続的学習を維持することが難しい学生がいる一方で、非常に積極的に取り組む学生がいることも事実である。大半の参加者が積極的に取り組むような体制を整えるには、もちろん人手不足の解消という点は挙げられるが、それ以外にも内発的動機づけを高める効果的な指導法を取り入れるという可能性も十分に考えられるため、この点を探っていくことは今後の課題として挙げられる。

なお、全体的に「リスニング」に比べて「文法問題」に目安通りに取り組む学生数がより多い傾向も見られた。音声を開かなくても取り組める点や、各問題に要する解答時間が短い点などが関係しているかもしれない。

4.2 後期道場参加者の「ぎゅっと e」取り組み状況

前期道場の取り組み結果と同様の内容を、後期道場においても報告する。学習目安（図 6～図 8 参照）計 14 週の取り組み期間にログインした参加者数は、図 15 に示す。また、週ごとに定めた学習目安到達状況を教材ごとにまとめた結果は図 16・図 17 に示す。図を見比べると前期道場の取り組み状況と同様の傾向が後期道場においても見られた。

今後の課題としては、目安以上・目安通りに終える学生の増やし方、逆に言えば、未取り組み者に対する対策が挙げられるが、そもそも本活動の目的が自律的な英語学習の機会を提供することであれば、取り組み課題量の目安を設定・提示することの是非を再考する必要があるかもしれない。仮に目安の学習量を設定するのであれば、「ぎゅっと e」は短期集中型の教材であるため、なるべく多くの問題量を短い時間でこなしてほしいという意図はあるものの、授業

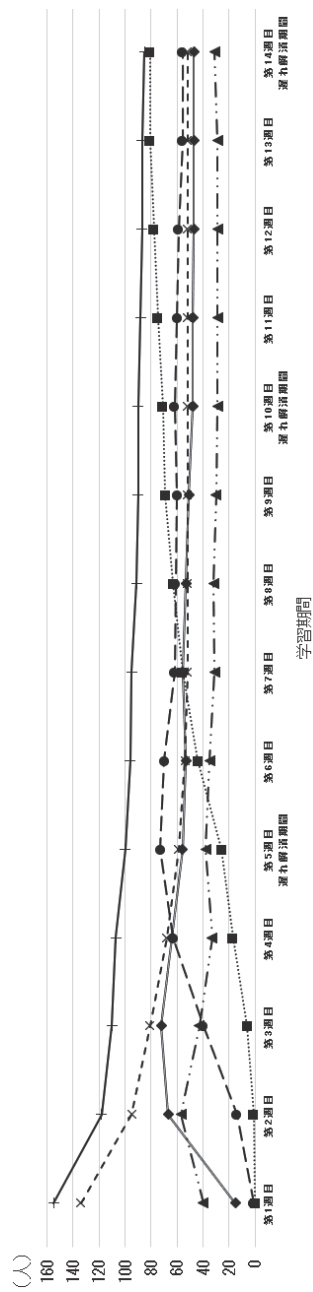
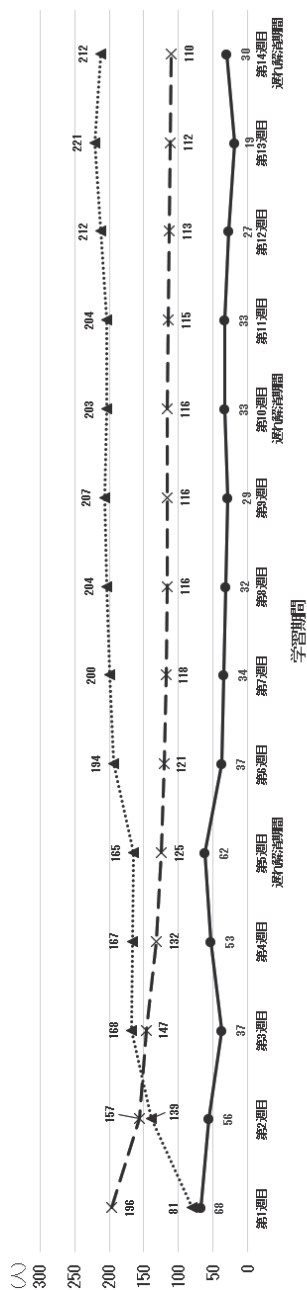
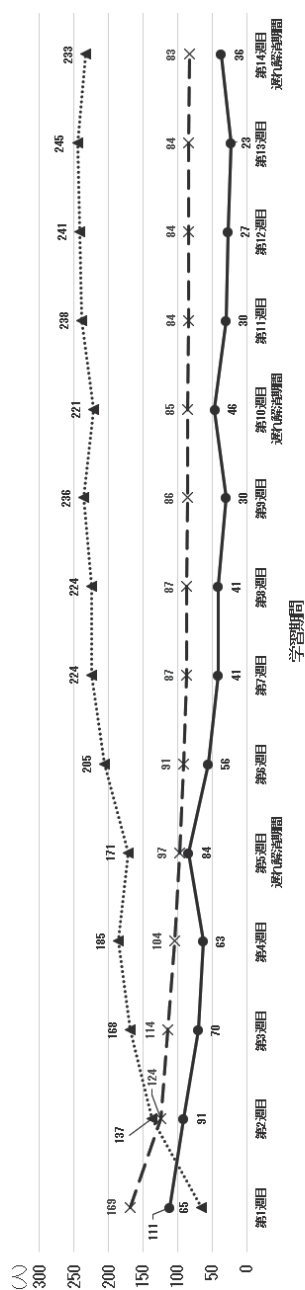


図15. 週ごとのログイン回数 (後期継続参加者間)



● 目安通り・目安以上 ... 目安以下 × 未取り組み

図16. 週ごとのリスニング教材の学習目安到達状況（後期録録参加者間）



● 目安通り・目安以上 ... 目安以下 × 未取り組み

図17. 週ごとの文法教材の学習目安到達状況（後期録録参加者間）

履修に過度な負担にならないことと、目安の提示により引き起こしうる動機の低下を避けることを同時に考える必要がある。今回の設定目安が、取り組み状況にどのような影響をもたらしたかについては明らかにはできないものの、前期道場の事後アンケートの結果からは、学習期間の設定は「適切」だったと回答した学生は全体の 68%を占めていた（学習量については、44%の学生が「適切」だと回答した一方、30%の学生が「多い」と感じたと回答した）。

少なくとも今年度このような活動を実施したことで、本学生における自由参加型の英語学習への参加・取り組み状況について知見を蓄積することができた。同様の活動を今後も継続していけば、自律的な英語学習に取り組む際の本学生の学習傾向が把握できるようになるだろう。

本節までで参加者全体における学習取り組み状況を示した。次節では、鍛錬道場を通した学習効果について TOEIC IP の結果と関連づけて報告する。

4.3 前期・後期鍛錬道場の学習効果

今年度は、鍛錬道場の活動に加えて、2章で詳説した通り、計3回 TOEIC IP 試験を実施した⁽¹⁾。試験の実施時期は、各鍛錬道場で設定した学習目安週の開始前後となるが、これらの時期は学期の区切りや冬季休業期間でもあったため、鍛錬道場未参加の学生にとっても受験しやすいと考え、選んだものである。各道場開始前を受験時期とした主な理由は、3章で既述したように、学生が実力に応じたレベル教材に取り組めるようにするためであった。また、学習目安週終了後を受験時期とした主な理由は、道場参加学生自身で鍛錬学習の効果を実感してもらうためであった。しかしながら実際に受験するかどうかについては、各学生の判断に委ね、強制受験とはしなかった。第1回・第2回実施分を受験した前期道場参加者の情報は表4に、第2回・第3回実施分を受験した後期道場参加者の情報は表5に示す。

実施回が新しいほど受験者数が少ない原因としては、その回以前に受験経験を有している可能性が考えられる。また補足として、第1回および第2回、そして第2回および第3回の両実施回に受験した前期道場参加者と後期道場参加者は、それぞれ18名と3名であった（彼らの所属学科や学年などは多岐にわたった）。小規模なサンプル数ではあるが、前期道場参加者18名の学習開始前と学習目安期間終了後の TOEIC IP スコア平均は、それぞれ 588.06 ($SD = 112.03$) と 643.03 ($SD = 96.40$) であった。これらスコアの平均に差があるか

どうかを調べるため対応のある t 検定を行ったところ有意差が見られた ($t(17) = -2.334, p < .05$)。学習目安期間終了後の TOEIC IP の平均点が学習開始前の平均点と比べて有意に高かった。今回の結果はサンプル数が少ないため参考程度以上にはならないものの、学習効果が期待できる可能性は示唆されたといえるであろう。また、本調査で行ったように学習効果を検証する上では、個々の学生の情意的側面（例：やる気、動機）や認知的側面（適性）が及ぼす影響などテスト得点以外の要因も考慮に入れて検討していくことが、効果的な英語学習支援を提供していく上で重要であると考えられる。

表4. 第1回・第2回TOEIC IPを受験した前期道場参加者の記述統計

学年	第1回実施分			第2回実施分		
	<i>n</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>n</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>
B1	55	569.09	92.71	6	641.67	80.76
B2	36	554.72	89.66	8	586.25	98.83
B3	25	572.40	124.10	3	555.00	39.37
B4	19	547.37	105.92	4	752.50	77.58
博士前期課程	30	569.50	104.61	3	650.00	78.21
博士後期課程	3	551.67	207.38	1	720.00	—
総受験者	168	563.81	101.90	25	626.80	104.51

表5. 第2回・第3回TOEIC IP試験を受験した後期道場参加者の記述統計

学年	第2回実施分			第3回実施分		
	<i>n</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>n</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>
B1	8	580.00	60.93	2	677.50	32.50
B2	9	614.44	132.57	2	557.50	217.50
B3	6	581.67	120.96	3	588.33	81.07
B4	8	674.38	147.28	2	680.00	20.00
博士前期課程	6	576.67	182.18	—	—	—
博士後期課程	1	755.00	—	—	—	—
総受験者	38	612.37	137.76	9	621.67	125.54

5. おわりに

本稿では、英語科目集団が 2021 年度に実施した、授業外での継続的な英語学習支援について報告を行った。具体的な支援としては、年度を通した（１）定期的な TOEIC IP（オンライン）テストの実施と、（２）オンライン教材「ぎゅっと e」を用いた学習環境の提供であった。これらの支援の結果、一定の学生の参加が見られたが、オンライン学習支援上改善すべき点も確認された。今後は、オンライン学習案内時の手順の簡素化や、未学習者の減少に向けた対応案の具体化、オンライン学習効果に関するデータの蓄積などを行い、さらなる改善を行う必要がある。

注

（１） 第４回は、３月 15 日（火）～５月 13 日（金）の期間を受験申込・受験期間とし、現在実施準備を進めている。